

B 18

播州鐵道とら

かんたものか

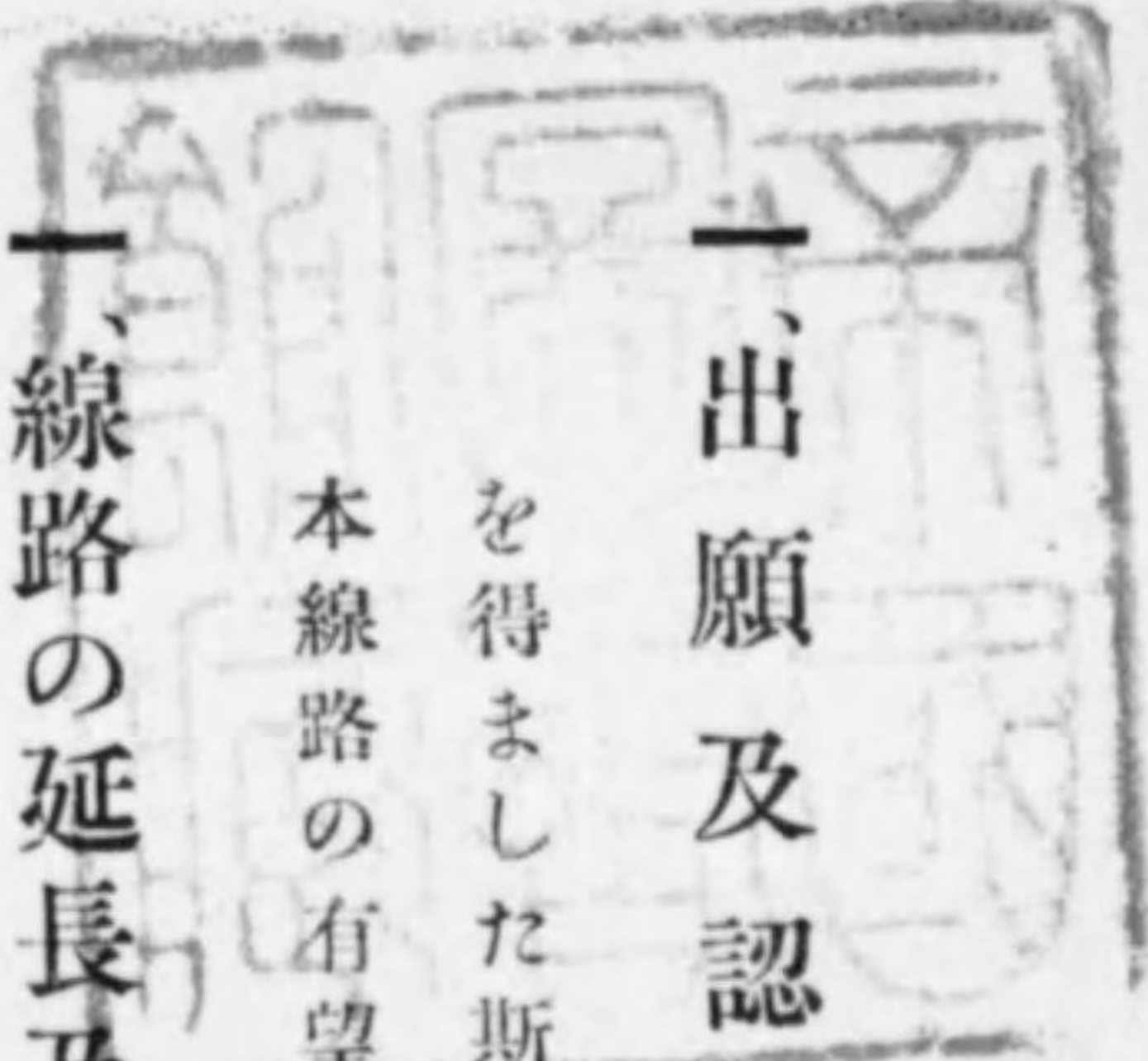


◎輕便鐵道補助法案!!

政府は今期議會に輕便鐵道補助法案を提出せり該法案によれば
輕便鐵道法に依り認許を得たる各種の鐵道は開業後其配當率が五朱に
達せざる場合五朱迄の補助を受くるものにして法案の精神が地方交通
機關の敷設を奨励するものたる以上は何人も異議あるべき筈なく且去
七日の政友會政務調査會に於ても該法案に伴ふ四十四年度補助金貳拾
五萬圓の豫算に對し同意を與へたれば最早兩院の通過疑なきものと見
て可なるべし

本法施行の曉は輕便鐵道法により認可を得たる播州鐵道の如きは五朱
の保證によりて頗る確實なるものたるべく國債證券と何等撰ぶ處なか
るべし且該法案によれば政府は平素嚴密なる監督を爲すものなれば此
點に於ても株主は頗る安心して投資し得べければ本鐵道の如きは世
の資本家の一顧に値するものたるべきを信するものなり

該法案提出以來多少疑問を拂ひしは該法發布以前に認可を得たるもの
も矢張り補助を受け得べきや否にありしも去六日衆議院同法案委員會
に於ける後藤鐵道院總裁の答辯により發布以前に認許を得たるものと
雖ども同一に補助せらるゝ方針なる旨を確め得たり



◎播州鐵道とは

如斯有望のものなり

一、出願及認可

明治四十三年の十一月一日に出願しまして
僅か二箇月餘りで本年一月二十五日付認可

を得ました斯の如く異例の短時日に認可を得ましたのは畢竟
本線路の有望と必要を認められたる結果であると思ひます

一、線路の延長及經過地

本鐵道は相生の松で有名な高砂町に
起りまして加古川町を経加古川の流

域に沿ひ播州織で近來有名になりました多可郡の西脇町に達
するものを本線としまして是が二十四哩十鎖
夫から國包といふ處から岐れまして三木町に參ります枝線が

44. 2. 20
内交

四哩十五鎖と阿形から分岐しまして北條町に達する枝線が八哩四十五鎖、加古川で山陽線に連絡しますのが五十五鎖之を合せまして全體で三十七哩四十五鎖となります

一、資本金と収益

株数は三萬六千株で資本の總額は百八拾萬圓であります利益の豫算は九朱強の豫定でありますは實地の模様なり各種の統計に準據して調べたものでありますから確かなものと信じて居ります

一、設計の概要

輕便鐵道條例で認可を得ましたから往々世間では例の雨の宮式や馬車鐵道の氣の利いたもの位に誤解して居らるゝ向もある様子でありますが此鐵道の實質は普通の蒸汽鐵道と一向違つた事はないのでありますレールの幅も山陽線など、同様で他日官線の貨車など直通

運轉の出来るだけの設備を爲すつもりでありまして唯機關車などの形が多少小さいのと停車場や其他の設備は出来るだけ簡便にするだけの違ひであります

一、工事費の低廉

此鐵道の經過して居ります處は至つて平坦で従つて工事などは殊の外樂であります唯加古川を二箇所渡らねばならぬのが一番の大事事で其外は隧道もなく切取り築堤の大きなものもありません従つて工事費も一哩當り四萬七千圓にしかありません近來の電氣鐵道が廉いで拾五六萬圓もかゝるのは丸で比較にもなりません従前の蒸氣鐵道でも五六萬圓から拾萬圓も懸つたものであります工事の期間も全線一時にかゝりますれば着手の日から一年位で竣工する積りであります

一、沿線の地勢と物資の豊富

此鐵道の經過して居ります處は加古、印南、美嚢、加東、加西、多可の六郡に跨りまして此面積が約七十五方里例合ますれば丁度團子のような東播州の平原を此鐵道で串刺しする様な姿で今日迄此團子の周邊を包んで居ります山陽線や阪鶴線其他播但線などありますけれども山陽線を除いては何れも人烟稀薄な周邊を經過して居りますので内部の大事な場所は何等交通機關の便も無かつたのであります

此鐵道の沿線は人口稠密、田園肥沃多數の農産物を産出しまする中にも御影西の宮邊の酒造原料は主に此播州米と稱するものを使用して居ります此外薪炭肥料の出入及木材の如きは此鐵道の開通を俟つて其搬出を増大する事と信じます

一、沿線の名所舊蹟

殊に終點西脇町の播州織と稱する機業近來非常に盛んになりまして一箇年の製出百八十萬反此工業の盛況に伴ひます同町の輸出入貨物は一箇年八萬噸以上に及んで居ります

東播州の地方は古くから開けた土地でありますから名所舊蹟は數ふるに違あらずの有様であります就中高砂の相生の松二十五番札所清水寺二十六番札所法華山一乗寺などは最も有名のものでありますから此鐵道が完成しましたならば多數の遊覽客を見る事と信じます

一、將來の工業地

高砂町には目下三菱製紙場及鐘淵紡績工場加古川町には日本毛織會社工場等がありまして是等の輸出入貨物は近來非常に多額に上り高砂、加古川間

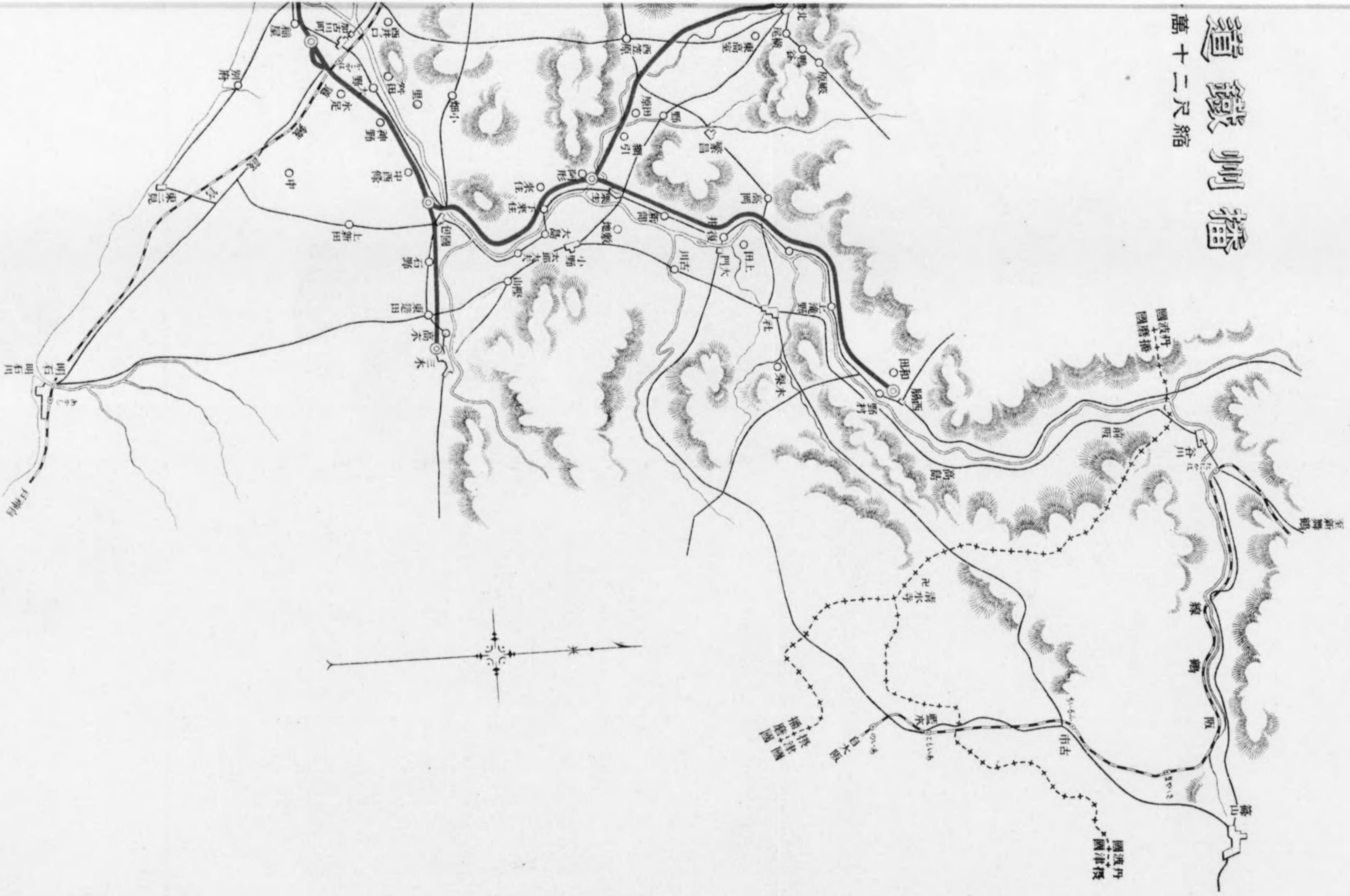
の貨物交通は一箇年五萬噸以上に及んで居ります是は畢竟同
地方地價の低廉と勞銀の關係より如此工場の設置された結果
でありまして今後益此趨勢を認めます以上同地方は將來の工
業地と化するの目あるべしと信せられます

以上採り摘んで述べました通り此鐵道の將來は近畿地方稀なる好望
の線路と信じて居りますから猶詳細の事は重複の點も有りますが別
紙にて御覽を願ひます



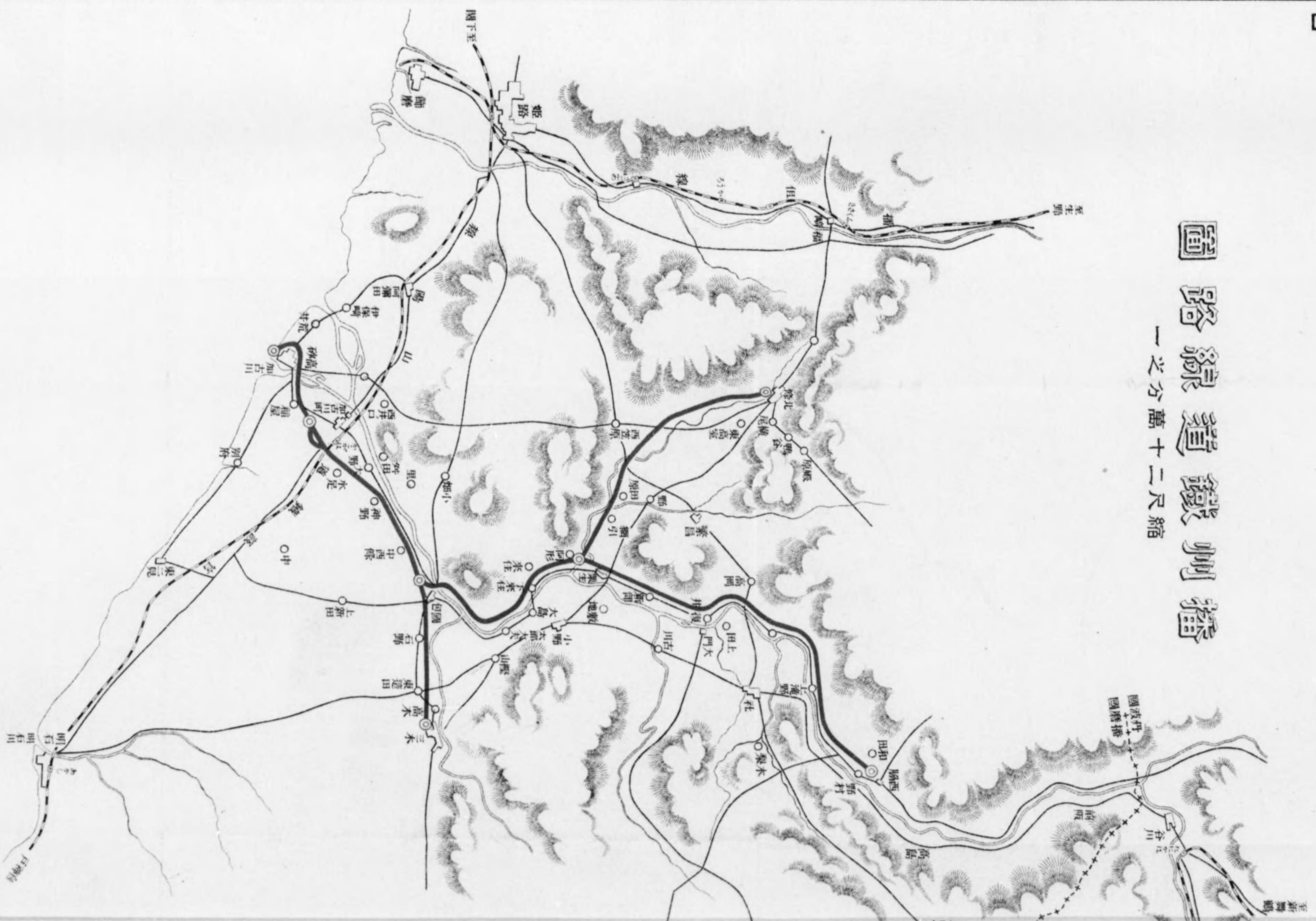
播州鐵道

縮十二尺



播州鐵道線路圖

縮尺十二萬分之一



一、線路の位置目的及物資の状況

播州鐵道は加古川の流域たる加古、印南、美囊、加東、加西及多可の六郡内に包容する物資の集散旅客交通の便を開くに在り

本鐵道の起點たる高砂町は播州沿海良港の一にして終點たる西脇は加古川の上流に位し共に物資の集散に至便の位置を占め其中間より分岐して一は美囊郡三木町に至り一は加西郡北條町に至る此二町は與に郡の首腦にして物資の集散と旅客の往來に至大の關係を有せり

中部平原たる六郡の廣袤は七十五方里人口は約三十萬人にして到る處小都邑多く加ふるに肥沃の田畑に富み數多の農商物を産す古來播州米と稱し灘地方に輸出し酒造の原料に供せらるゝものは多く此地方より産出し且近時多可、加西諸郡に於ける機業は駭々乎として盛況に向ひ就中多可郡に於ける播州縞及白木綿は近來顯著なる産額を見

るに至り其の明治三十八年の生産數量四十五萬八千五百餘反のもの逐年増加し同四十二年に至りては百九十八萬五千七百餘反に上れり以て之れが盛況を卜するに足るは勿論洵に縣下有數の産物たりとす又同郡は古來殖林の行はれたる結果南北十里に亘り豊富なる山林を有し木竹材及薪炭の産出他に卓絶すると其他鑛山數所に散在し銅の産額少なからず加東加西及美囊の各郡亦木材薪炭の産出に乏しからずして殊に晩近加東郡清水寺の所在地たる御嶽山の有名なる良材巨木は漸次伐採せらるゝを以て之れか輸送を吸收するに足るべく尙ほ沿線石材に富み其最多なるものは加西郡北條町附近に於ける長石オウソウイシと稱するものにして産出頗る盛大なるを以て本鐵道完成せば悉く之を積載すべき有望の貨物たるべし且つ全國屈指の名産たる三木金物の製産地は實に美囊郡にして之れが原料竝に製品の出入頻繁なるを以

て是れ亦有望の物資とす印南郡は各地盛んに洋巾の製造行はれ京阪又は海外に輸出せらるゝもの巨額に上れり其他加古郡高砂町に於ける三菱製紙場鐘淵紡績工場の原料及製品の出入は大に注目に値するものにして如上物資の豊富なる皆本鐵道と相待ちて之れが産出を盛ならしめんとす要するに鐵道の開通は是等産業の發達を促し産業の發達は鐵道をして益々有利の域に達せしむるものなれば本鐵道は其目的を達するに於て將來頗る多望なりと謂はざるべからず播州に於ける交通機關としての山陽播但及阪鶴の三鐵道は何れも其位置一邊に偏在し中部平原たる六郡の交通に於ては蓋し缺如たるを免れず故に本鐵道にして敷設せられんか多可加東加西三郡の旅客貨物は悉く之を吸收せらるべく美囊郡の七八分加古印南二郡亦過半を吸收し得べきは地形の然らしむる所にして尙ほ丹波或は播但線方面

より來るもの敢て少とせず以て其輸送範圍の偉大なるを知るべし本鐵道は主として是等不便を除くと同時に運輸交通の實を擧ぐる上に於て絶好の位置に在るものなり

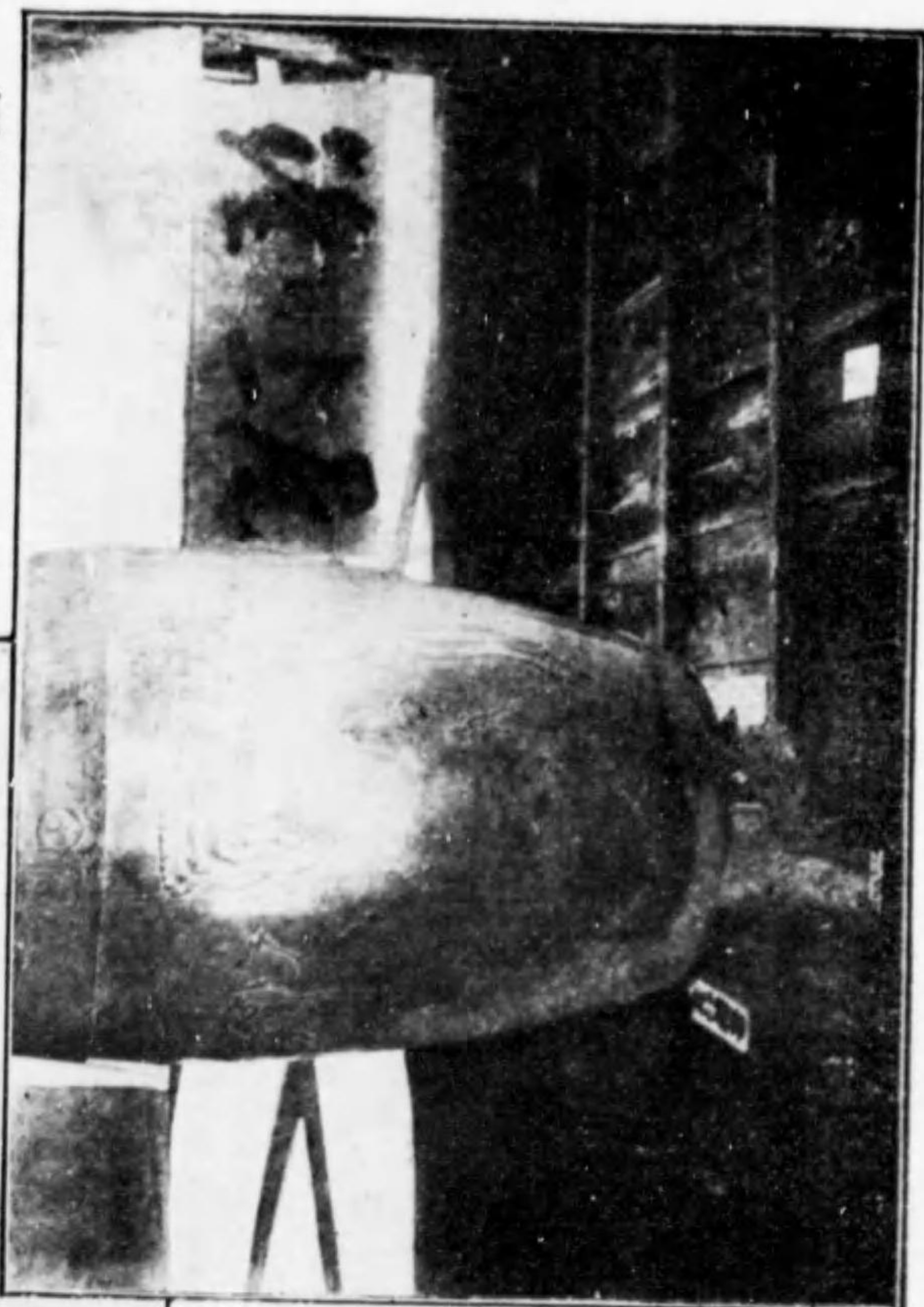
蓋し鐵道の目的に二個の主眼あり一は物資の運搬を主とし一は神社佛閣の報賽名所舊蹟の探勝を主とし所謂遊覽鐵道なるものなり本鐵道の主とする所は固より前者にありと雖ども其沿道後者に屬するもの亦た尠からざれば此二者を兼ねるものと謂ふも過言に非ざるべし

二、鐵道の經過地及延長

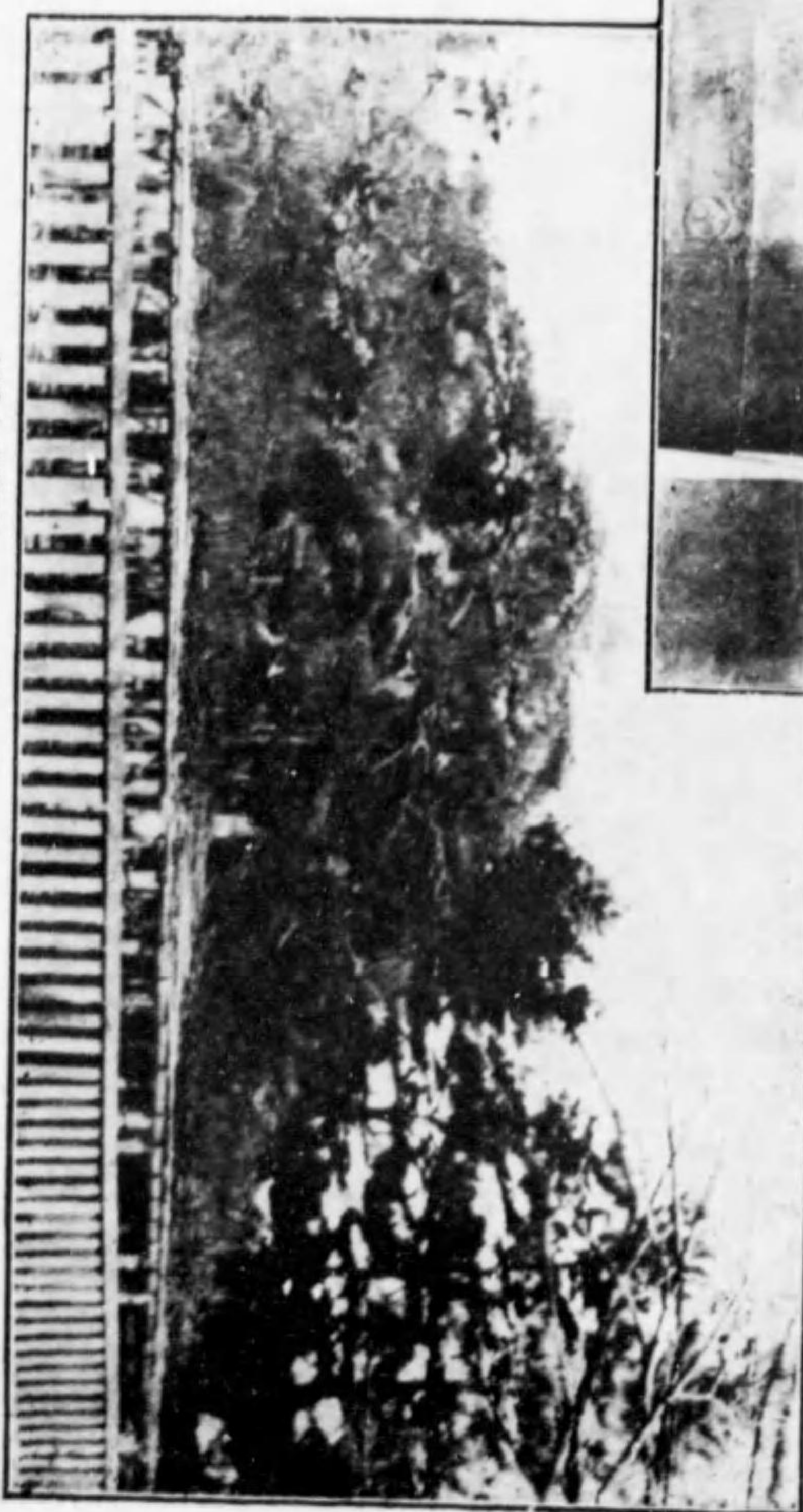
本鐵道の幹枝線總延長は三十七哩四十五鎖にして其細別は左の如し

幹線 高砂西脇間延長二十四哩十鎖

加古郡高砂町に起り加古川を渡り同郡加古川町に於て官設鐵道を越へ印南郡國包に於て再び加古川を渡り同流域の西方に沿ひ



(所名州播) 鐘ノ上尾 砂高

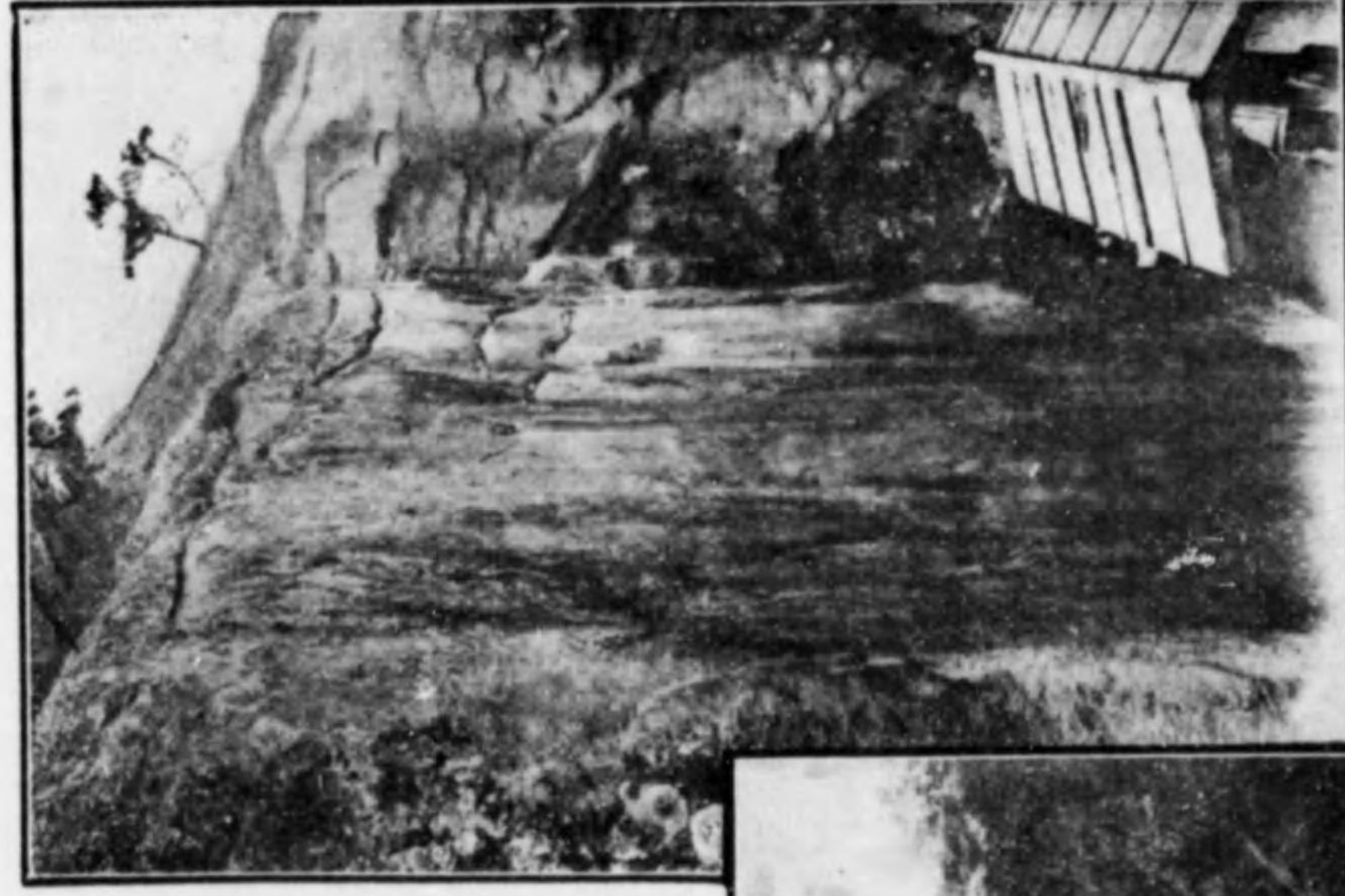


(所名州播) 松ノ生相 砂高

加東郡來住河合及瀧野を経て西脇に達す
 三木枝線 國包三木間四哩十五鎖
 國包に於て幹線より分岐して三木町に達す
 北條枝線 阿形北條間八哩四拾五鎖
 河合村の内阿形に於て幹線より分岐して北條町に達す
 加古川枝線 五十五鎖
 加古川町に於て官設鐵道に聯絡するものなり
 合計延長三十七哩四十五鎖

三 人口及物産の統計

本鐵道は加古外五郡に跨り其廣袤及人口の統計は左の如し(明治四十年兵庫縣統計書に據る)



石 寶 殿 (所名州播)



三 木 町 上 丸 園 公 園

郡名	面積	人口
加古	六、六四 <small>カク</small>	六二、三六六
印南	八、三九	五二、〇九六
美濃	一三、七三	三八、六二〇
加東	一五、〇一	五三、六一四
加西	一二、三一	四四、二七一
多加	一九、二五	三七、八九七
計	七五、三三	二八八、八六四

農産其他物産の主なる産額を統計に依り摘記すれば別表の如し(卷末挿入)

該二表によれば本鐵道の輸送範圍は七十五方里約三十萬人にして其間に産出する物資の饒多なるは前述の如くにして何人と雖ども其財源の豊富なるに首肯すべし

四、設計の概要、建設費及收支の計算

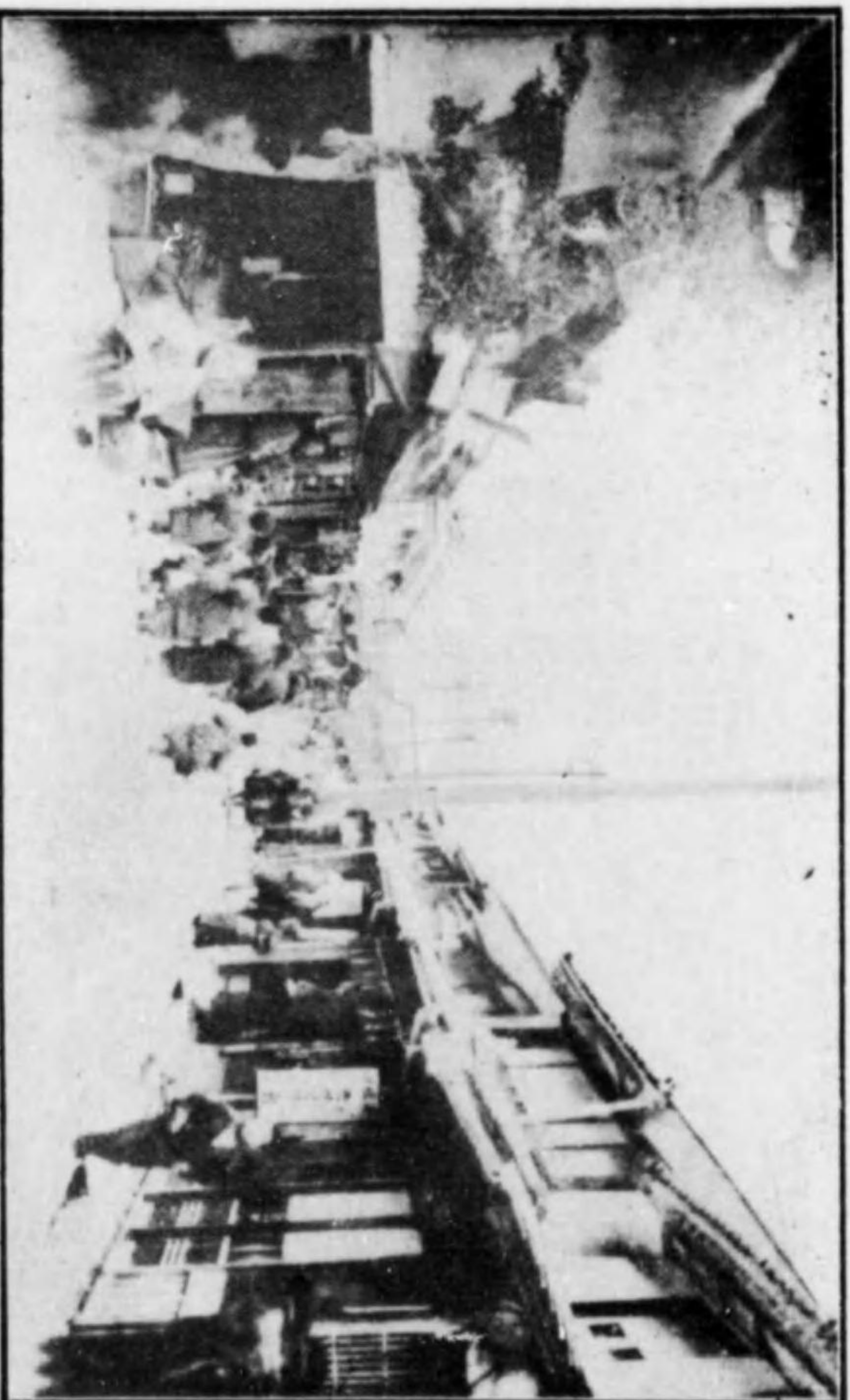
本鐵道の如き地方的交通機關は如何なる種類に依るべきかは頗る緊要の問題にして之れか選擇の良否は將來の運命に至大の關係を有するものなり

本鐵道は貨物の輸送を主とするものなれば電氣鐵道の不適合なるは固より論を待たず近時往々使用せられつゝある自動車鐵道の如きも重量あるもの又は容積の大なる貨物の輸送に適せざれば本鐵道は實地の狀況に鑑み蒸氣鐵道に依るの最も適當を認めたり依て輕便鐵道法に準據し可成輕易の工事を施し小形機關車を使用し以て實際の輸送に應せんとするの計畫を立てたり而して軌道以下の工事に於ては他日官設鐵道と車輛の共通運轉を爲すべき必要あるを以て普通鐵道と同一程度の工事を施し以て貨物聯絡輸送に差支なき設計を採りたり

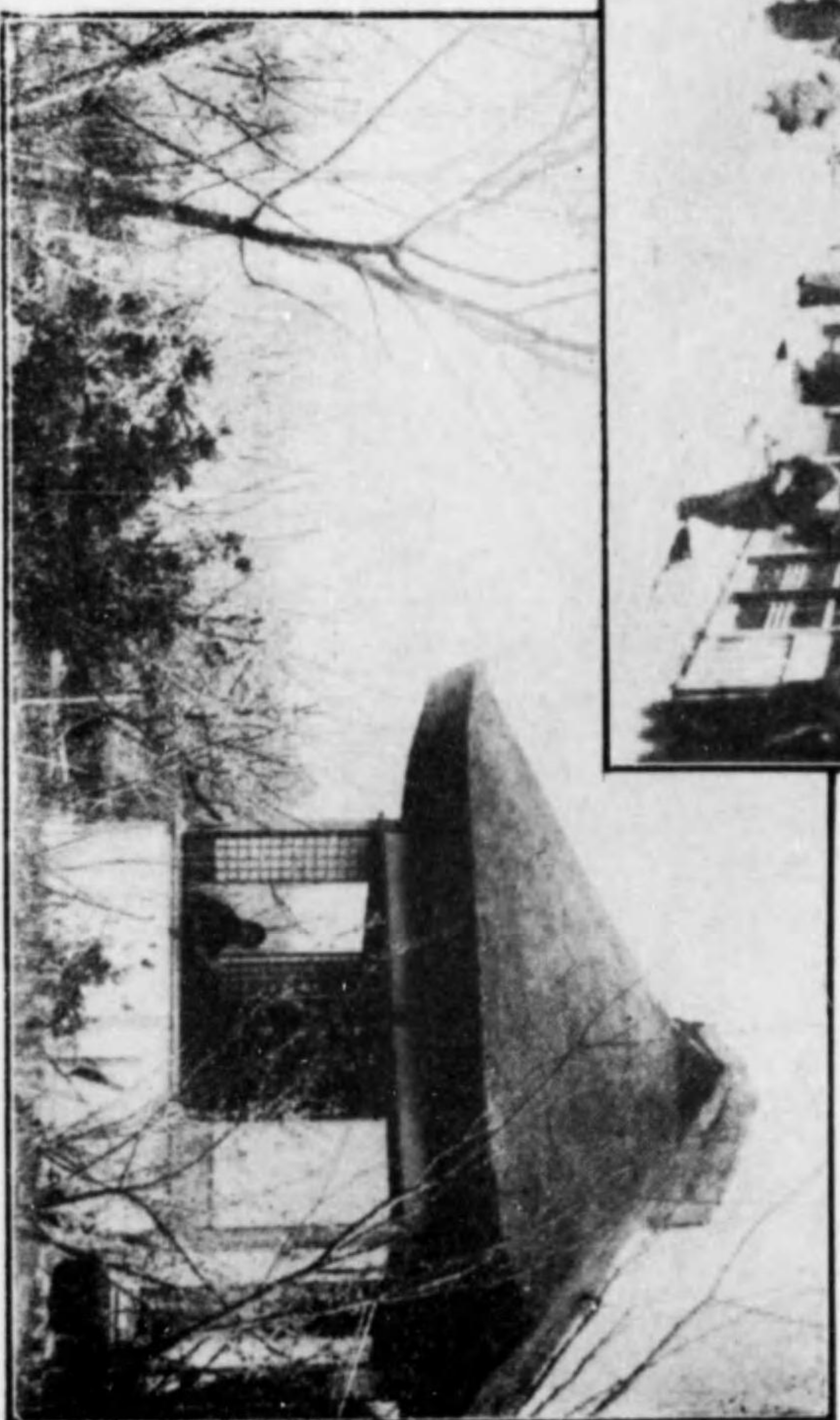
右設計に依る本鐵道全線三十七哩四十五鎖に要する建設總資金は金百八拾萬圓にして其收益は年利九朱強に相當すべき計算なりとす今之に對する起業目論見、建設費明細及收支計算の方法を詳記すれば左の如し

起業目論見書

- 一、本會社は輕便鐵道法に準據し輕便鐵道を敷設し旅客貨物運輸の業を營むを以て目的とす
- 二、本會社は播州鐵道株式會社と稱し其本店を兵庫縣加古郡加古川町の内加古川町に設置す
- 三、本會社の資本金は百八拾萬圓にして之を三萬六千株に分ち壹株の金額を五拾圓とす
- 四、本會社鐵道線路の起終兩點及其經過地は左の如し



町社



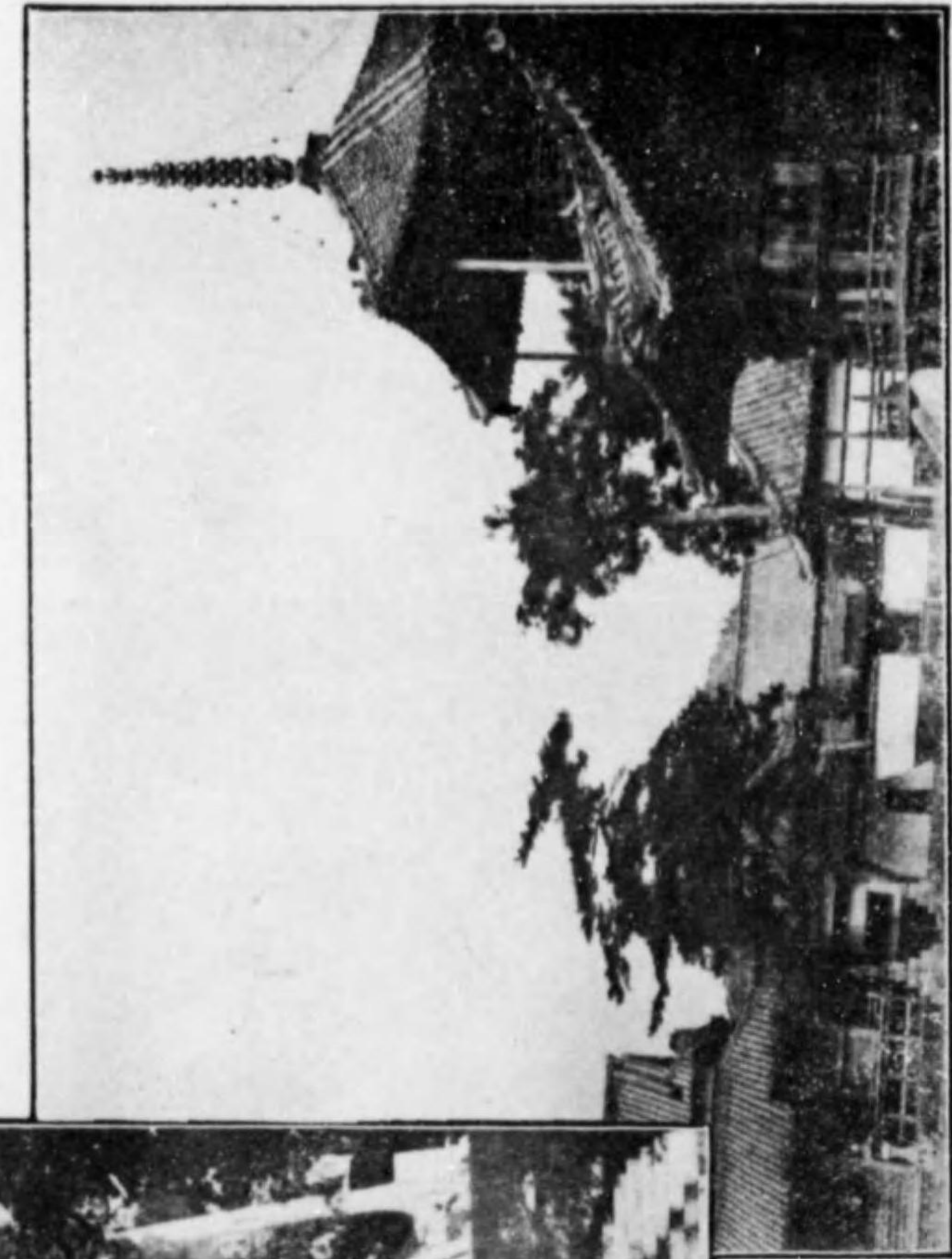
小野町ノ梅林

項	數	平均單價	金	備
測量及監督費	段量	円	円	考
用地費	八三三	三〇〇,〇〇〇	二四九,九〇〇	
土工費	一四〇〇	二六〇	三六四,〇〇〇	
橋梁費	延長 二六七	八五,〇〇〇	二二,六九五	
溝橋費	筒所 四〇	五〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	
伏樋費	筒所 四	一〇,〇〇〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	
軌道費	四三	一〇,〇〇〇,〇〇〇	四,三〇〇,〇〇〇	
停車場費	一	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	
車輛費	一	一,七三五,〇〇〇	一,七三五,〇〇〇	
諸建物費	一	七六〇,〇〇〇	七六〇,〇〇〇	

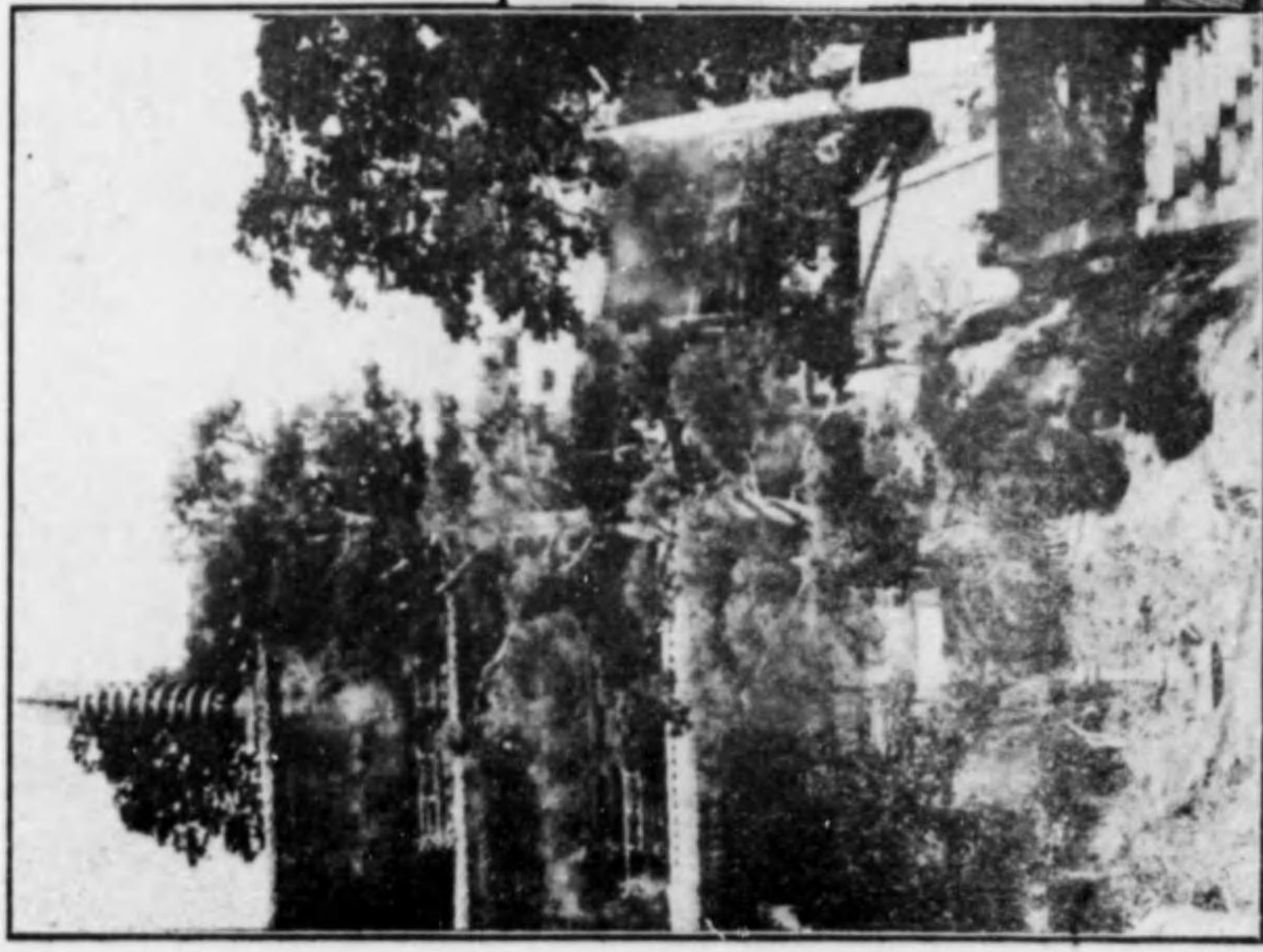
建設費明細表

六、本會社の營業期間は明治九十五年十二月三十一日限とす

五、鐵道の種類は汽車鐵道にして小形機關車を使用し軌間は三呎六吋とす
 (前記掲出に付省略す)



生山酒見寺 (町條北)



法華一乘寺 (所札番六十二)

電話線架設費	10,130,000	
建築用具費	7,510,000	
運送費	11,120,000	
柵垣及境界杭費	5,660,000	
總係費	33,000,000	
豫備費	7,365,000	
合計	77,585,000	敷設費
壹哩に付	47,519.9	
創業費	5,000,000	
營業資金	10,000,000	
總計	15,000,000	

收支の計算は將來事業施行上の基礎となるべきものなるを以て本願認許後更に種々の材料に依り極めて慎重の調査を遂げ萬遺算なきを期したり今茲に收支計算及豫算計數を詳述せん

一旅客 全國鐵道統計に依れば一箇年旅客の總人員は全國人口の

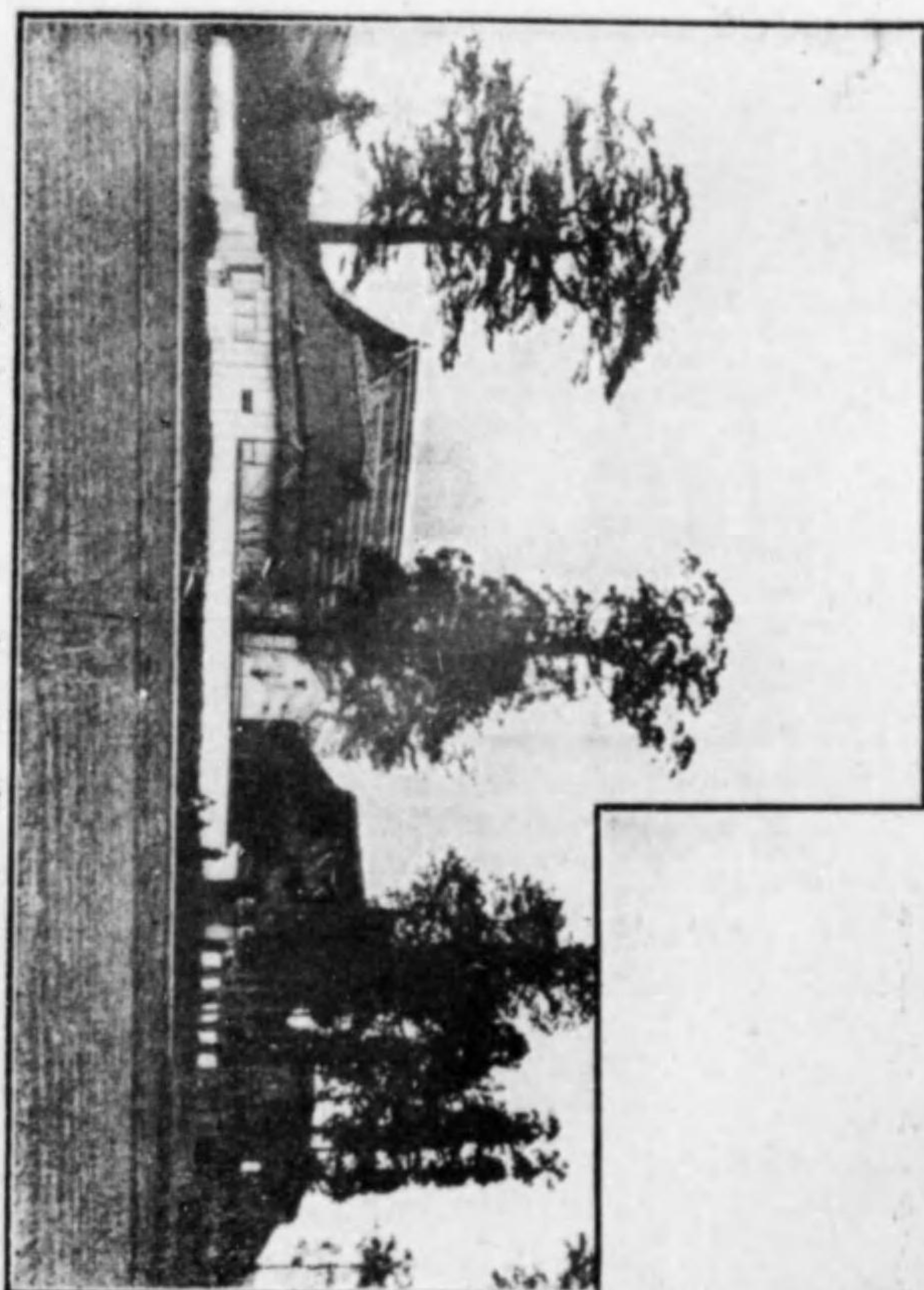
三倍強に當れり換言すれば一人の乗車度數は一箇年三回にして一人乗車哩の平均は二十二哩なりとす本鐵道沿線の人口は二十八萬八千八百人にして假りに本線の輸送範圍にあるものを此半數と見做し其人員が一箇年三回乗車するものとせば此延人員四十三萬三千二百人にして一人乗車哩二十哩とすれば一人一哩賃金平均貳錢の計算に於て此總賃金拾七萬參千貳百八拾圓となるべし

現在周圍の各鐵道線に依れるものを見るに山陽播但、阪鶴各線の内關係驛に於ける乗降客は一箇年百八萬人にして實地に於ける人力車馬車其他の交通現狀により調査したるもの一箇年百五十萬人なり今此兩者を平均すれば百二十九萬人にして此三分の一を本鐵道に吸集するものとすれば此人員四十餘萬人にして鐵道

統計に依れるものと全く相一致するを見るべし(別表参照)

二貨物 沿線六郡の輸出入貨物が附近の鐵道線即ち山陽播但阪鶴の各關係驛と交互輸送せらるゝ總數は一箇年二十五萬四百三十二噸にして現在實地の機關たる加古川の水運に依る船舶及び牛馬車等の陸送に依るものを通算すれば此總數一箇年四十八萬五千八百二十八噸なり今此兩者の平均數を以て沿道の出入貨物と假定し尙ほ正確を期せんが爲め更らに此半數即ち十八萬四千〇六十五噸を以て本鐵道に依り輸送せらるゝものとせば違算なきものと信ず而して此輸送哩を平均二十哩と假定し一噸哩賃金貳錢五厘の計算に於て此總賃金九萬貳千〇參拾貳圓五拾錢となるべし(別表参照)

前記の計算に依り更に收支豫算を爲すこと左の如し

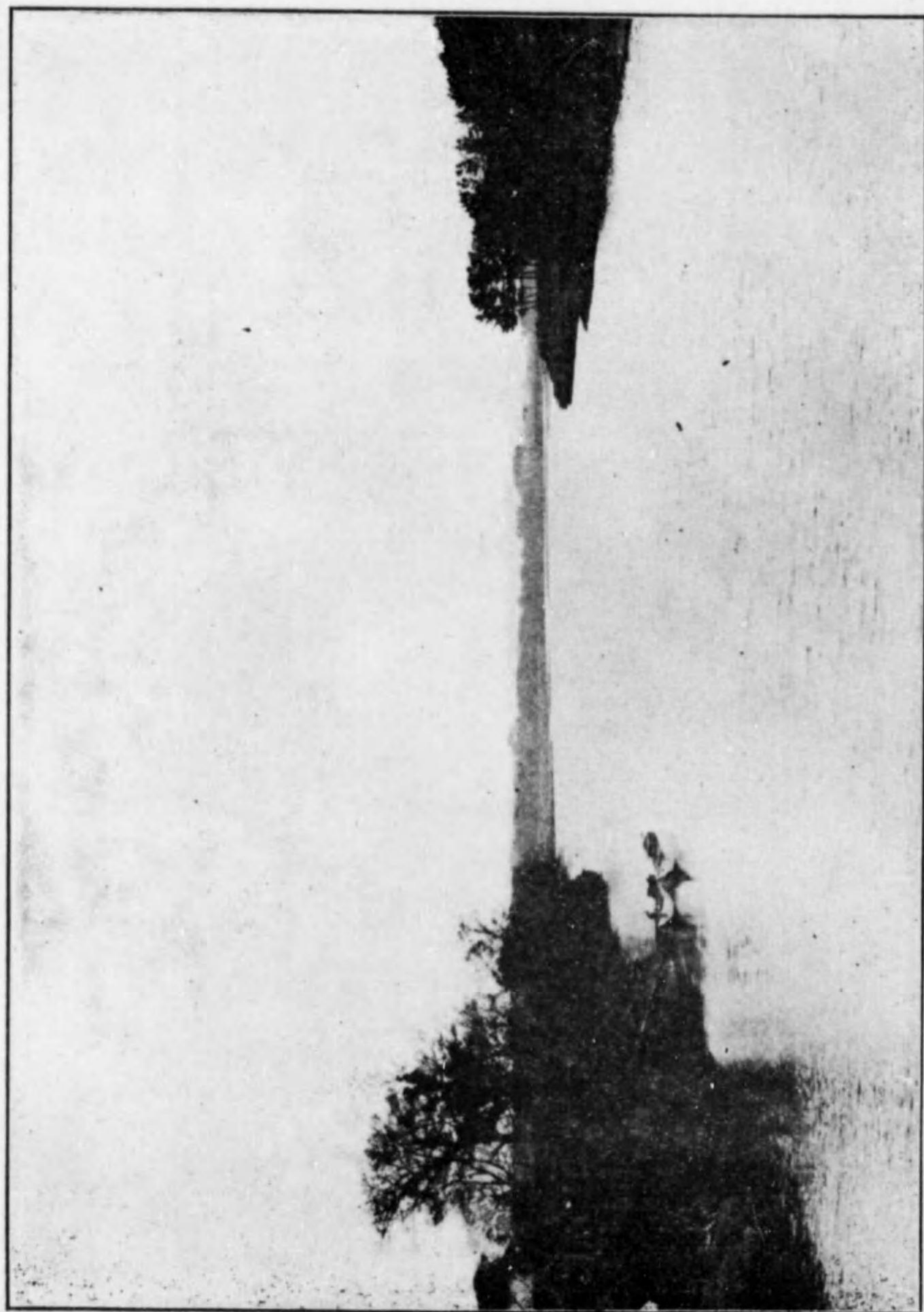


(村合河) 寺德慶山麓鐵



池鳴住來

加古川清流



一金拾七萬參千貳百八拾圓
 一金九萬貳千參拾貳圓五拾錢
 計金貳拾六萬五千參百拾貳圓五拾錢
 一金九萬六千圓

內

金壹萬九千圓
 金參萬貳千圓
 金貳萬七千圓
 金壹萬八千圓
 差引金拾六萬九千參百拾貳圓五拾錢
 資本金百八拾萬圓に對し年利九朱四厘

旅客收入(一箇年分)
 貨物收入(同上)

營業費(一箇年分)

線路保存費
 汽車費
 運輸費
 總係費
 益金



五、名所舊蹟及遊覽地

本鐵道の沿線は所謂播州巡りと稱する探勝區域に屬し古來文人墨客名僧碩儒の杖を曳きしもの少なからず且つ足利氏より織豊時代に於ては赤松、荒木等の諸豪族其武威を東播に振ひしを以て是等の舊蹟は殆んど枚舉に遑あらず今左に社寺舊蹟の主なるものを紹介せんとす

尾上住吉神社

加古郡尾上村

本社は神功皇后征韓凱旋後の鎮座にして尾上松、尾上鐘は古來より人口に膾炙する所なれば今復た喋々せず

高砂神社

同 郡高砂町

境内に有名の相生松あり古來文人墨客の此地を過るもの皆吟詠あらざるなし殊に一たび謡曲に上りしより其名遠近に傳はり終に異國人をして其名を欣慕せしむるに至る華夷通商考に大宛國一名塔伽沙各とあるは即ち高砂の名を轉用せしものなりと云ふ

寶瓶山十輪寺

同 郡高砂町

大同年間弘法大師の創建する所にして真言密乗の道場なりしも其後圓光大師里人の請に依り本寺に於て說法せしより淨土宗に改む寺に圓光大師自畫讚寶瓶御影を藏す仍て寶瓶山と號すと云ふ

刀田山鶴林寺

同 郡鳩里村

聖德太子の開基にして太子の自髪を植むたる三體の佛像あり相傳ふ太子佛法興隆の地をトせしめられしに其考文に鹿子(今の加古)の郡山海の中央に廣大なる平原あり是れ萬代不易佛法繁盛の地なりと依て此地に精舎を創建せられしと云ふ最も由緒ある寺院にして所藏の國寶亦多し

日岡神社

同 郡大野村

神武天皇東征の途次建立し給ひし所なり祭神は天伊佐佐彦命にして安産を祈るに其効驗靈著なるを以て遠近參詣者常に絶えずと云ふ附近に景行天皇妃陵あり

石寶殿

印南郡生石村

播州名所を説くもの石寶殿の靈地なるを知らざるなし寶殿は即ち神體

にして大き二丈三尺高さ二丈六尺の全石を以て社壇の形を爲すものなり

三木城趾

美囊郡三木町

別所長則始て此に城さしより世々相傳へ長治に至り天正年間織田氏の滅す所となる其城趾を訪ふもの誰れか懐古の感なからん

高源山雲龍寺

同 郡三木町

天徳二年慈惠僧正の創立する所にして其山號は後醍醐天皇の御下賜に係ると云ふ
寺内に別所長治の首塚あり

來住鴨池

加東郡來住村

銃獵の禁斷地にして冬季數萬の鴨群の浮游するを見る里人池邊に聳立する山嶺に潜み晨夕群鴨の山地に添ひ飛翔するを待ち忽然網を被ひ之を捕獲す其技の巧妙なる驚嘆に堪へたり里俗之を霞獵と稱す風光の明媚と共に遊覽するの價値あり



飛田の池



飛田の池

吉祥龜鶴山慶德寺

同 郡河合村

慶德寺は禪曹洞宗にして應永八年春庭見芳禪師の草創せる處永享年間
後花園天皇禪師を禁裏に請して禪要を聞き特に山寺號に吉祥龜鶴山福
壽慶德寺の嘉號を附せられ且つ日月星三光繡褥竝に紫衣を賜ふ今尙重
寶として藏す鎮守毘沙門天は雲慶の作靈驗顯著祈願者常に多く毎年一
月三日の大祭には遠近の賽者市を爲す門末派下には三木雲龍寺、明石月
照寺、兵庫福昌寺、但馬隆國寺を始め數百の派下を有し播陽第一の禪刹な
り若し背後の寺山に登れば加古清川脚下に流れ郡内一眸に集り實に好
個の清遊地なり

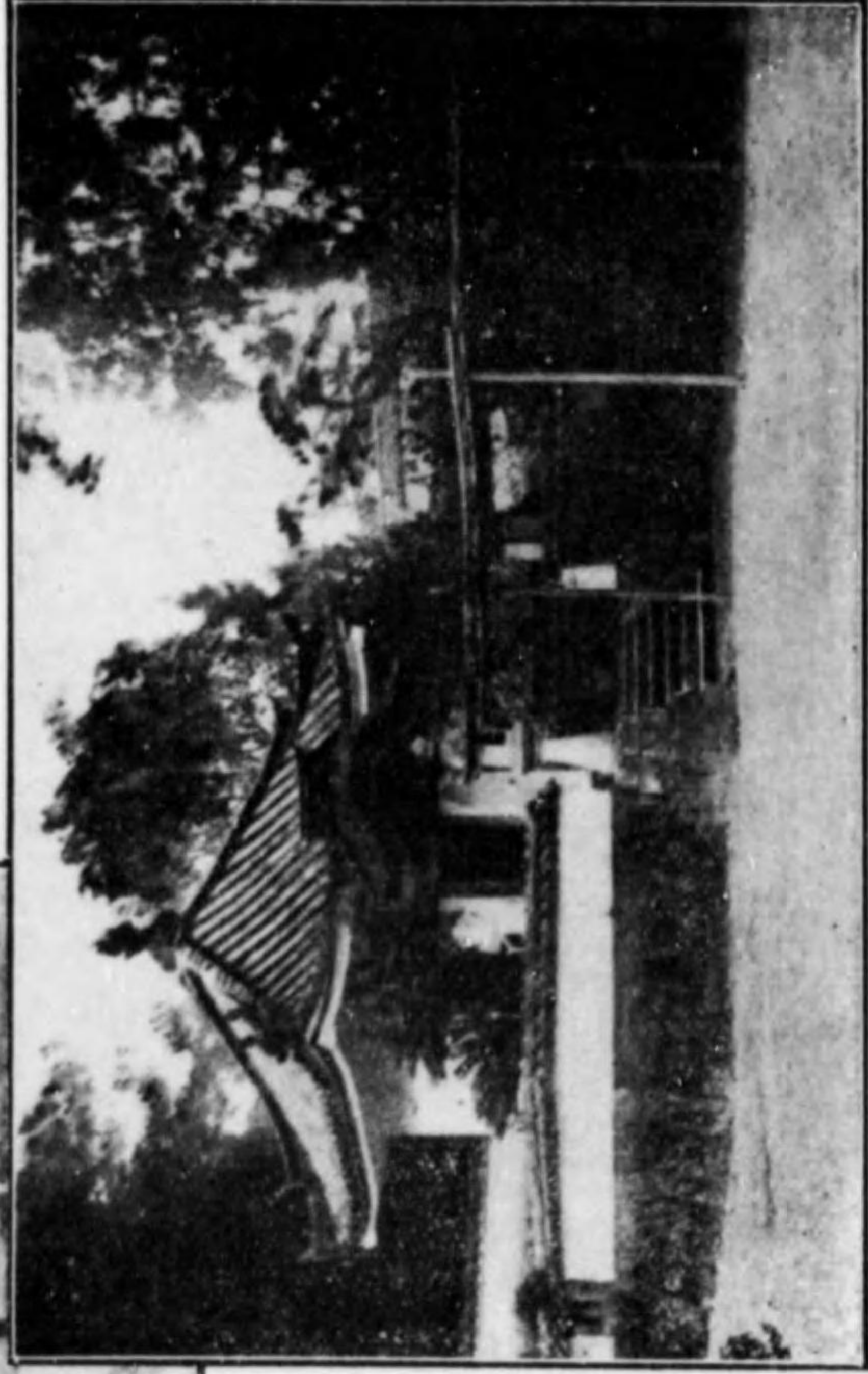
小野梅林

同 郡小野村

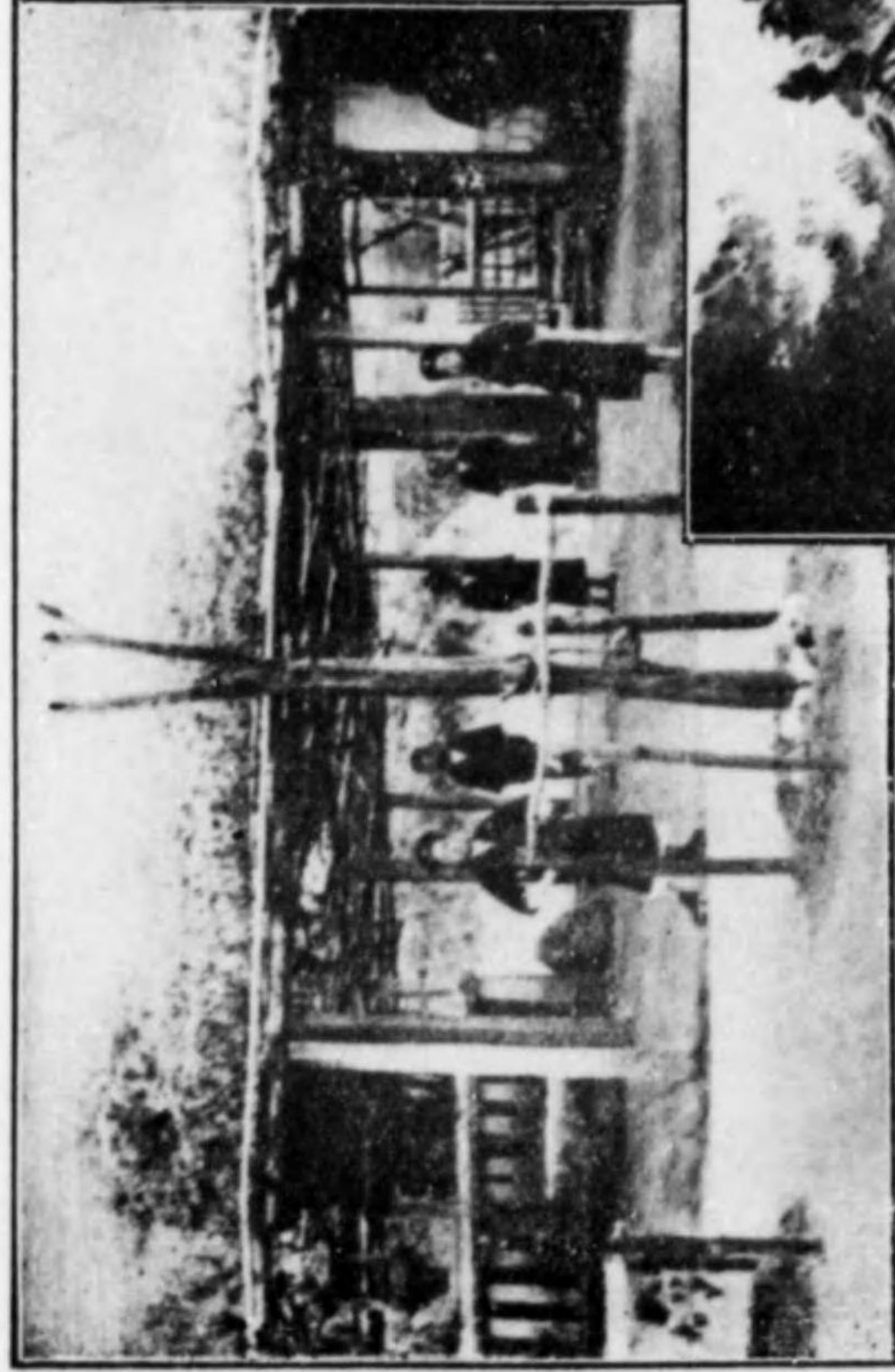
一柳家の舊城地にして地に中學校あり近來梅林を闢き遊客の觀覽に供
するあり其花時に當り遠く之を望めば一白雲の如し以て半日の清遊を
爲すに足れり

極樂山淨土寺

同 郡小野村



善導大師廟 (龍野光明寺)



龍野公園 龍蟠松

行基菩薩の開基にして現在堂宇中三棟は飛彈工匠の建造に係り本尊丈六の彌陀尊像は湛慶の作に係る云ふ是等は皆國寶にして外に十數點の國寶を有する名刹なり

五峰山光明寺

同 郡瀧野村

法道仙人の開基にして善導大師自畫像一幅を藏す幅は天台の慈覺大師入唐の時靈夢に依り得る所にして我邦に於て此一幅を存するは實に稀世の珍寶とすべし
毎年五月七日八日九日の祭日には數萬の參詣者陸續として相絶せずと云ふ

瀧野鬮龍瀑

同 郡瀧野村

加古川の上流にして怪巖奇石亂峙甚敷するもの其妙名狀すべからず其間自然に雄大の奔湍飛瀑を爲せり頼山陽陽梁星巖等嘗て之を賞し名けて鬮龍瀑と曰へり以て其壯大雄偉の狀を想見すべし地本と鮎の名所にして其激湍として岩上に飛躍するものを拾得するの快は蓋し天下絶無と

す然るに現時交通不便の爲め其名廣く世に現れずと雖も毎年漁期に至れば遊覽の客尙ほ數萬の多きに及ぶと云ふ實に本線中最も有望なる遊覽地にして線路開通の曉は更らに幾層倍の遊覽客を吸收すべきは斷じて疑はざる所なり

御嶽山清水寺

同 郡鴨川村

法道仙人の開基にして西國二十五番の札所なれば遠近の參詣者常に絶えず

寺元と水に乏しきを以て仙人水神に禱りけるに清水忽ち湧出し大雨にも増さず大旱にも減せず仍て清水寺と號すと云ふ

法華山一乘寺

加西郡下里村

法道仙人の開基にして西國二十六番の札所なり

山内幽邃にして足一度其地を踏めば眞に仙境に入るの想あらしむ

泉生山酒見寺

同 郡北條町

眞言宗にして寺内に引聲堂あり春秋二回の大祭には數萬の信徒遠近より

り來り賽すこ云ふ

如意山周遍寺

同郡九會村の内綱引村

法道仙人の開基にして弘法大師自作の立像を安置す

山内眺望絶佳にして四時參詣者絶えず殊に毎月二十一日には信徒の來り賽するもの甚だ多しと云ふ

童子山公園

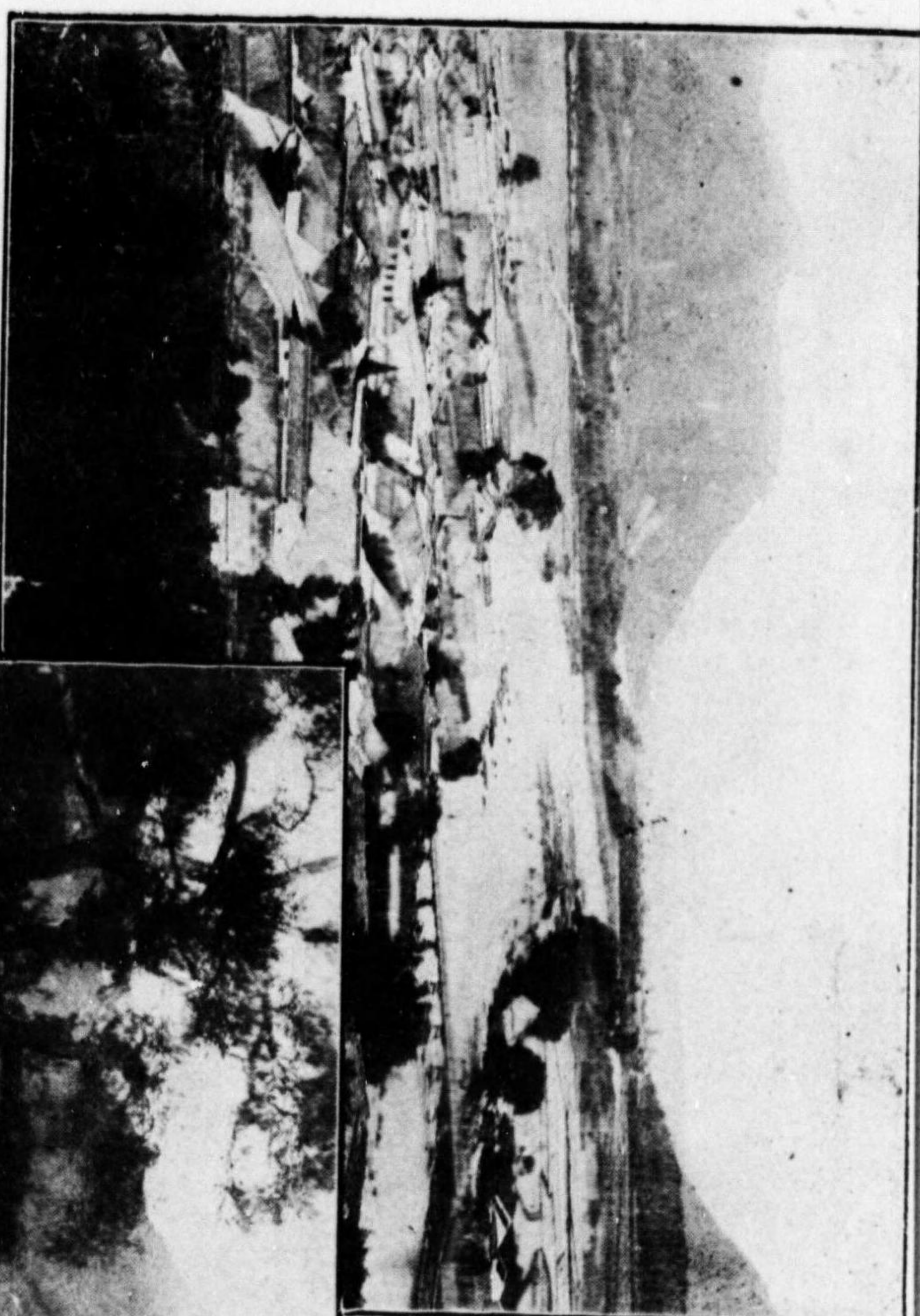
多可郡西脇

西脇町後の山上に在り加古川近く脚下に流れ下流諸郡の山河邑屋參差
基布するもの皆一囀に歸し遠く淡路島を雲烟漂渺の間に望むべく眞に
一幅畫圖の如し其風景の絶佳なる能く筆墨の狀する所に非ざるなり

由縁ノ松

同郡西脇

加古杉原二川合流の沿岸にあり怒張假蹇形ち一大傘を張るが如し盛夏
の候樹下に憩へば清風習々として兩腋に生ず最も納涼の好適地とすべ
し樹下に川下神社を祠る
歌人隆正の詠に

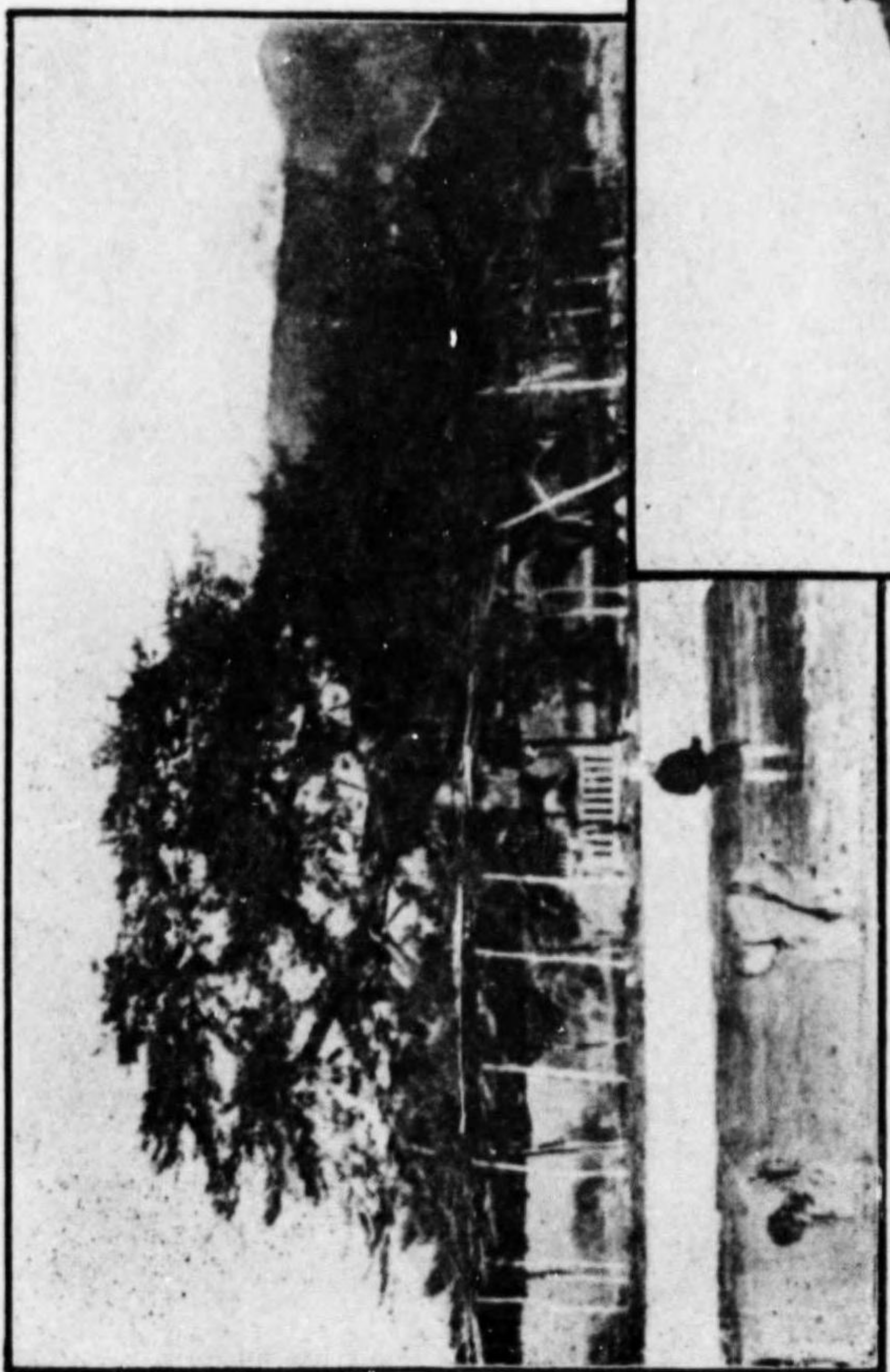
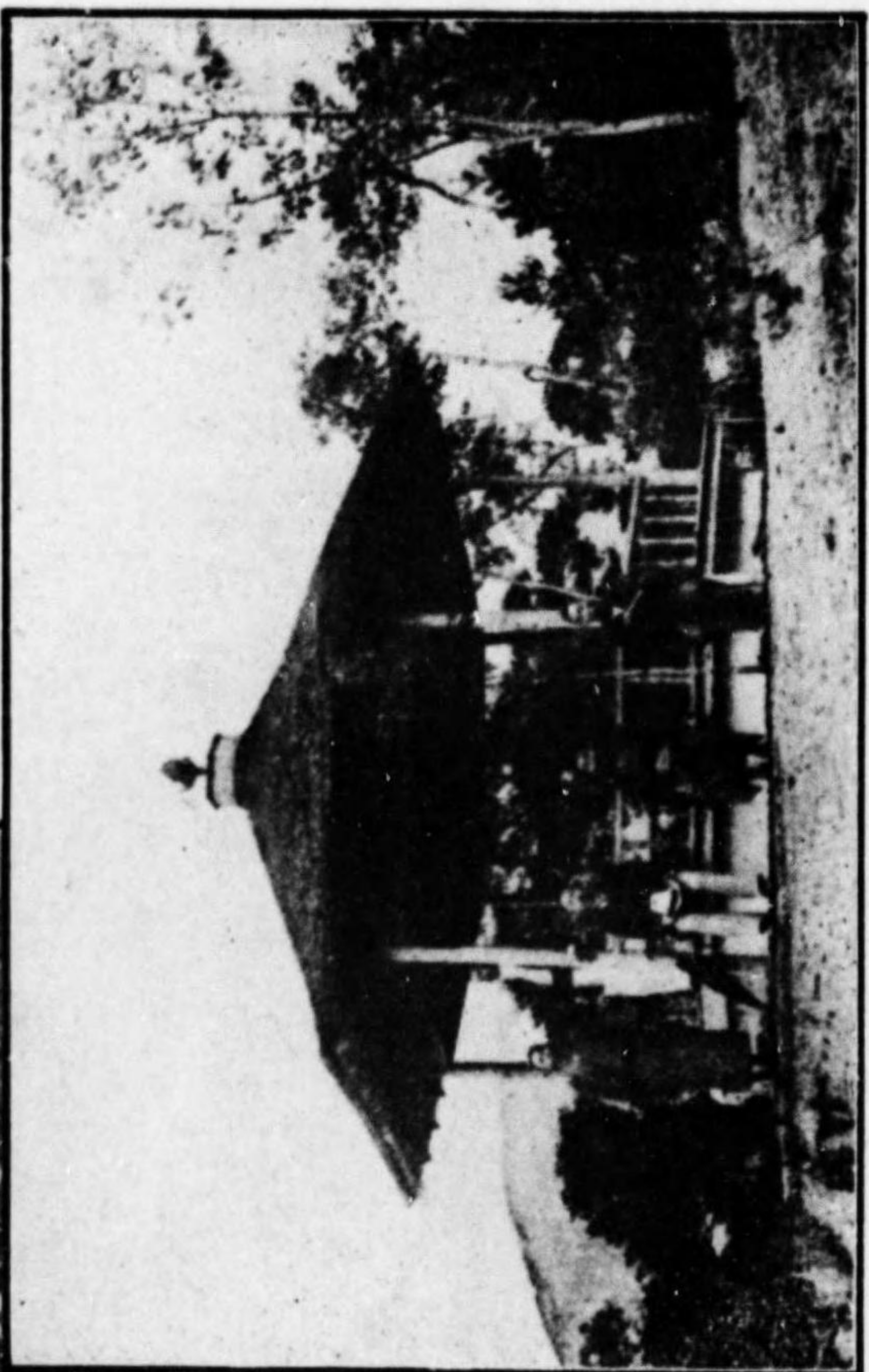


景全ノ町脇西



瀬々狭町脇西

西脇町童子山公園



川下由松ノ縁(西脇町)

に影をたよりに

立ちよらん

の松のかつはきくさ縁山

高松山長明寺

同 郡高松村

法道仙人の開基にして本尊十一面観音は仙人の自作なりと云ふ
寺内に源三位頼政の墳墓あり頼政宇治平等院に自殺するにき其家臣猪
野早太に命じ遺骸を此地に埋めしめたるなりと云ふ

高砂海水浴場

高砂の海岸水清く砂白き處遠淺にして最も海水浴に適し夏時浴客數萬
の多きに上ると云ふ

青野原陸軍廠舎

加西、加東二郡に跨る陸軍省所管の練兵場にして第十師團各兵科の演習
を爲しつゝあるを以て之れが參觀者少なからず

六、工場

同 相野驛 三九、三一四人 同 二四、九八〇噸
 計 百〇七萬九千百十四人 二十五萬〇四百三十二噸

二、沿道旅客宿泊人員

(四十一年中警察署調査)

高砂 一〇、四〇八人 加古川 一五、九五〇人 魚橋 八、七一〇人
 社 二二、〇二二人 中村 一二、八一四人 北條 一一、七七四人
 三木 一七、二七五人 計 九萬九千九百四十三人

備考 右の外無届者親戚知己に宿泊するもの通行旅客を豫想せば其數十五萬人を下らざるべし而して右二者にして往復せば五十萬人となり是れと同時に此地方より他地方へ旅行するもの同數と見做せば合計一百万人となるなり以て關係各驛昇降人員と附合するならんか

三、交通現在

(四十一年中)

郡別	乗用馬車	人力車	自轉車	荷牛馬車	荷車	船舶
加古郡	三	三四一	二二九九	五一八	一、九六八	一二八
印南郡	〇	一七六	二〇三	二二三	二、二八二	三二四

加東郡	一四	二二六	一七一	四四四	一、七五五	一〇四
加四郡	二	一八九	一七一	二四三	一、五八二	三
多可郡	一	一五四	一八〇	一八五	二、〇六三	六
美囊郡	一七	九六	一一九	三七四	六五八	一
合計	三七	一、一九二	一、〇八三	一、九八七	一〇、三〇八	五六六
○乗用馬車	一臺一日	五人と見做し一箇年乗員	六萬七千五百二十五人			
○自轉車	同上	一人と見做し一箇年	三十九萬五千二百九十五人			
○人力車	同上	一人と見做し一箇年	四十三萬五千〇八十人			
計			八十九萬七千九百人			

是れに徒歩旅客を併算せば百五十萬人を下らざるべし

○荷牛馬車 一臺一日の積量 ○、七四噸(但平均二百貫目)一箇年に百八十噸

一箇年千九百八十七臺の總積量二十六萬四千六百六十八噸

○荷車 一臺一日 ○、二〇噸(但平均五十四貫目)一箇年に百日

一箇年一萬〇三百〇八臺總積量二十萬六千六百六十噸

○船舶 海口及渡船に屬するもの多數なるを以て之れを算入せず單に加東郡より高砂に至る高瀬舟二十五艘のみを計上す此一回の積載四噸

糸類	5,000	大阪	27,000	神戸
砂糖	100,000	神戸、大阪、讃岐		
セメント	1,000			
煉瓦	200,000			
雜類	15,000			
計	355,000		309,366	

西脇町貨物集散一覽 (明治四十二年) (本線終點地)

一箇年間	輸入噸數	3萬二千〇九十噸
同	輸出噸數	5萬四千〇三十六噸
總計		八萬六千二百二十六噸

輸出入內譯左の如し

輸出之部

品目	數量	換算質量	噸數	品目	數量	換算質量	噸數
麥	三千石	十二萬貫		米	二萬二千石	八十八萬貫	
織物	百五十萬反	二拾四萬貫		木炭		三萬四千貫	

薪	20萬斤	5萬貫		木材		8萬4千貫	
鑛銅	一萬六千	參萬貳千貫		凍蒟蒻	二千俵	八千貫	
高野豆腐	五百籠	二萬三千貫		清酒	八百石	四萬貫	
柳及釣針		一萬八千貫		鎌及刃物		三萬八千八百貫	
生花	一萬八千駄	七萬二千貫		菅笠		一萬三千五百貫	
茶	三千駄	一萬二千貫		果物	七百五十駄	三萬貫	
繭	千三百石	一萬參千貫		生絲		五百貫	
牛馬	八百頭	四萬八千貫		黃蓮其他藥種	四百駄	一萬六千貫	
鑛石	二百萬斤	三十二萬貫		機道具其他		三萬六千貫	
煉瓦	五千駄	二十萬貫		杉檜皮		三萬五千貫	
線香材料杉葉粉		二萬七千貫		磁器		三萬六千貫	
竹材		九十萬貫		漆器指物		一萬八千貫	
干草		八萬貫					
合計	一千四百五十八萬八千八百貫					五萬四千〇三十六噸餘	

輸入之部

264
717

明治四十四年二月十一日印刷
明治四十四年二月十三日發行

發行所 大阪市東區北濱四丁目二十五番地 播州鐵道株式會社創立事務所
編輯者 田中清行 神戸市吳平野村百五十番屋敷ノ七
印刷者 市田幸四郎 神戸市元町二丁目二百八十七番屋敷
印刷所 市田印刷所 神戸市元町二丁目二百八十七番屋敷

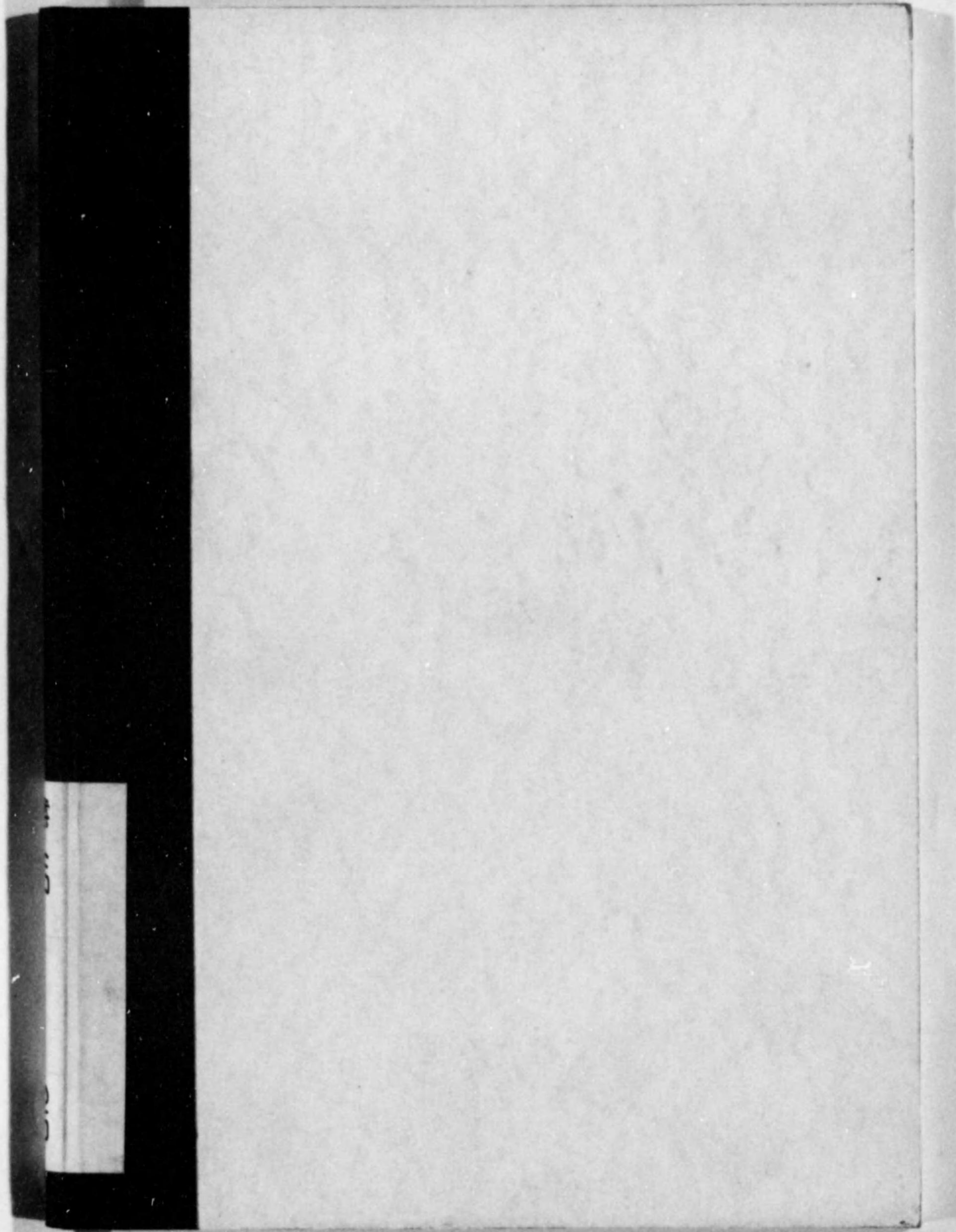
品目	數量	換算質量	噸數	品目	數量	換算質量	噸數
紡績絲	九千個	三三萬四千貫		染料	十五萬斤	二萬四千貫	
助劑	六七萬五千斤	十萬八千貫		石油(燈油)	二萬九百零打	七萬九千五百貫	
石油(器械油)	一萬三千零打	十三萬五千貫		肥料(石灰)	三十三萬俵	百三十三萬貫	
肥料(大豆糟)	三萬個	三三萬五千貫		肥料(人造)	一萬二千噸	十二萬貫	
肥料(海產)	三千三百零噸	九萬貫		肥料(雜)	一千二百噸	四萬八千貫	
菊蕪玉	五千噸	二十萬貫		雜貨		二百萬貫	
砂糖	九三萬六千斤	十五萬貫		米利堅粉	一萬八百袋	六萬四千貫	
食鹽	三萬六千俵	十二萬三千貫		石材		三十六萬貫	
高野豆腐原	百八十九萬貫	七千噸		鹽乾魚	七千俵	三十六萬貫	
鮮大豆	一萬五百貫			佐官灰	七千俵	四萬二千貫	
吳服太物	二萬七千貫			工業用諸器械		五千貫	
鐵材	三萬六千貫			牛馬	一千頭	六萬貫	
蓮及叭	十三萬四千貫			石灰	百三萬零斤	十八萬貫	
火藥	三千六百貫			青堇		七萬二千貫	
藍玉	三萬四千貫			合灰		四萬五千貫	
洋酒	八萬五千貫			セメント		十八萬貫	
合計	八百六十六萬四千四百貫			合計		三萬二千〇九十噸	

B. 18



大阪市東區北濱四丁目二十五番地

播州鐵道株式會社創立事務所



特47

917

播州鐵道とはどんな
ものか

国立国会図書館

禁複写

025598-000-5

特47-917

播州鐵道とはどんなものか

田中 清行 / 編

M44

ADC-3092

